

金融商品取引法		非常勤講師 小杉 伸次	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 専門選択科目	科目ナンバリング	23020210

1. 授業のねらい・概要

金商法に関する事象（粉飾決算、インサイダー取引、公開買付による企業買収等）は広く世間の耳目をひき、また、私たちが金融商品を購入する際には金商法に基づいて保護され、場合によってはこれに触れる虞もある。講義では規制の全体像（開示規制、金融商品取引業者の規制、金融商品取引市場の規制、不正取引の規制等）や関連する個別の諸問題について解説する。

2. 授業の進め方

教科書・重要判例・新聞等を用いて広く浅く学習するとともに、特に重要な内容については、深く学んでいく予定である。受講生が知的好奇心を抱き、講義終了後も興味を持ち続けるきっかけになるよう心掛けたい。

3. 授業計画

1. 金融商品取引法の概要	9. 不正取引規制（3）[その他（不正行為の禁止・風説の流布・偽計・暴行または脅迫の禁止）]
2. 金融商品取引法の適用範囲	10. 損失補填，その他金融商品取引業者による不正取引の禁止
3. 開示制度（1）（発行開示等）	11. 金融商品取引業者等の規制
4. 開示制度（2）（継続開示等）	12. 金融商品取引所等
5. 開示制度（3）[その他（プロ市場・内部統制報告制度・確認書制度・大量保有報告制度等）]	13. エンフォースメント（組織・手段等）
6. 公開買付制度	14. 企業の金融商品取引法への対応例
7. 不正取引規制（1）（インサイダー取引規制）	15. 諸外国の動向・議論
8. 不正取引規制（2）（相場操縦行為等の禁止）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキスト・参考書等を事前に読んでおくこと（条文も参照すること）。なお、金商法に関連する語句を手がかりに、関連する日本経済新聞の記事にも目を通しておくこと。

事前学習に要する時間は個人差がある（読む速度について）ので、具体的に記入は不可と考える。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験とは別にレポート試験を実施する。事前に出題意図を説明し、事後に簡単な講評を付して、各人に返却する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 金商法の概要，証券取引をめぐる不正な行為，金商法に関する重要判例について説明することができるようにする。
- 2) 金商法関連の時事的話題を理解できるようにする。
- 3) 金商法上の諸課題への企業の取り組みを知る。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（60%），受講態度等（10%），レポート試験（30%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

松岡啓祐『最新 金融商品取引法』（中央経済社・2018）

参考書：神田秀樹・神作裕之『金融商品取引法判例百選』（ジュリスト別冊・2013）

9. 受講上の留意事項

「ポケット六法」(最新版)は毎回必携のこと。
会社法等の知識があれば更に理解が深まる。